

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470200938		
法人名	社会福祉法人 青山里会		
事業所名	四郷グループホーム		
所在地	三重県四日市市西日野町小溝野4014		
自己評価作成日	平成22年8月1日	評価結果市町村提出日	平成22年10月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470200938&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 22 年 8 月 20 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周りに緑が多く、春になると桜の花が沢山咲く静かな環境にあります。地域の在宅介護支援センター、デイサービス、ヘルパーステーション、訪問看護ステーション、サテライト特養が併設され色々な面で協力してもらっています。利用者の元氣と笑顔の絶えないように、自立支援・生活リハビリ・散歩・レクリエーションにと頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は何でも話し合える関係が築かれている。職員の落ち着いた声掛けが利用者の落ち着きにつながっている。「一人ひとりを尊重し笑顔あふれる家」との理念をもとに目配り・気配りをモットーに介護に徹している。利用者の思いなど納得のいくまで傾聴され利用者一人ひとりに合った支援につなげている。ホーム内には季節を感じる飾り付けや対面の台所からの食事の匂いで得てして忘れがちな四季感を五感で感じる工夫をされている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やスタッフルームに理念を掲示して、いつでも目に入るようにしたり、ミーティングには理念に含まれる小さな事についても話あっている。	『一人ひとりを尊重し、笑顔あふれる家』を理念とし全職員が理念を共有され実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	デイサービス、サテライト特養の利用者との交流、又、障害者施設たんぼぼとの交流があり、散歩の途中に寄られたり音楽療法に参加いただいている。	散歩時には地域の方や畑仕事をしている住民にこちらから挨拶をしたり話し掛けるよう心掛けている。最近顔見知りになった子育て中の親子が訪問され利用者が喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献は法人で取り組んでおり、同敷地内の在介で福祉教室等開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の様子、行事、事故報告等を行い家族からの質問、意見又グループホームからの協力をお願いし、話あっている。	家族・包括支援センター担当者・民生委員に出席して頂き2カ月に1回開催し、そこでの意見をサービス向上につなげている。個人記録を見て頂いた家族から記録だから利用者には敬語は必要なのかとの意見を頂いた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	直接連携は取れていないが緊急情報、研修の案内、又、分からない事があれば電話で聞いている。	行政へ管理者が連絡を取る事は少ないが、同一法人の在宅介護支援センターのセンター長が日頃頻りに行政担当者と会う機会が多く情報が入る仕組みはとられている。行政開催の研修には職員が出席し、ケアサービスにつなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のケアの中で何が拘束になるのか話し合っている。玄関の施錠については、開錠時間を長くしている。	倫理綱領に基づき拘束のないケアに取り組んでいる。片方のユニットは常に施錠されており、一方のホーム玄関口が駐車場でもあり、日中短時間施錠されている。土日には駐車利用が無く開錠している。	利用者の立場に立って「拘束されている」と思う気持ちがないか、又、家族とも相談しながら固定的な考えにこだわらず工夫する努力が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで話たりケア誌から学んで虐待防止に努めている。利用者の様子観察を行う事で異常の発見に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学び職員皆で理解するようにしている。運営推進会議でも家族とともに学び話しあっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学、入所時に説明し理解してもらっている。改定などの説明は、文書と、運営推進会議の場でもおこなっている。退所後についても法人の利点を活かし相談に応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置してどなたでも利用できるようにしている。運営推進会議でも意見をもらっており、いただいた意見はグループホーム便りに乗せたり職員と協議している。	面会時にご家族との話し合いの中から意見や困り事など外部へ表せるように働きかけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際に意見を出し合ったり、日常的にも積極的に意見を出してもらい、その意見を責任者にも伝えている。	職員の関係がとても良く何でも話せる環境であり、朝のミーティングなどで意見など聞く機会を設け反映につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	度々責任者がグループホームにきて職員の話聞いて把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在働きながらヘルパーの勉強をしている職員が2名いる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で知り合った同業者の方に積極的に会話をとり、よりよいケアのあり方、職場のあり方を聞くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査で本人の思いや状態の把握をし、利用者によってはお試しショートから使ってもらい、不安解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や実態調査で、家族が今までしてみえた苦労等を共感をもって聞き、安心して何でも話してもらえるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人において相談の窓口を一本化し、必要とするサービスにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は嫁であり、娘、時には友人として接し、一緒に洗濯干し、掃除、料理等をしてその中で多くのことを学んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診は家族にお願いしている為定期的に来訪し、利用者の状態を把握したり、職員と利用者について話し合っている。行事にも参加してもらって、色々利用者の状態を見てもらうようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に家族と共に子供の頃すごした家に帰って見える利用者があり、外出・外泊をすすめている。	毎週末に自宅へ帰る利用者もあり、家族の協力を得て生家訪問もされる利用者もあり、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が仲良く暮らせるようリビングの席を考えたり、話の成り行きを見守り、時には介入して話がうまくいくよう気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入所されても様子を伺いに行ったり、遊びに来てもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に出来るだけ寄り添い、意思の疎通を図りながら何でも言って貰える関係を築くよう努めている。意思の疎通の困難な方には、日頃の表情、行動から把握に努めている。	毎日目を通す申し送りノートにも寄り添う介護に徹するよう書き込まれている。見守り、寄り添う事で利用者の思いなど把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時御家族の方に本人の生活暦を書いてもらったり、本人のケアマネさんから様子を伺っている。実態調査のときには、暮らされていた生活の場を訪問し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の一日の過ごし方、状態について記録し、毎朝日勤者が話し合いをもち皆が現状を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時は本人の希望、家族の意向を聞き、スタッフの情報も得て本人本位のプランになるよう作成している。	生活援助記録に本人・家族から聞き取り、スタッフの意見を聞き、現状に即した介護計画を作成している。3ヶ月に1回の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に本人が言われた言葉をそのまま書き皆で気持ちを読み取ったり、記録とは別に食事量の少ない方、毎日排便のない方、体調の悪い方等は表を作り、介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族のない方で必要なものは、食料品の買い物時に一緒に行き買ったり、体調が悪く、家族に連絡の付かない方、家族のない方は職員で受診に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人から音楽療法に月数回来てもらい楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今まで通われていたかかりつけ医で受診してもらっている。又相談したい時は、家族の了解を得て相談し、適切な医療が受けられるようにしている。	かかりつけ医は本人・家族の希望するところでの受診支援を行い、遠路の場合は近くの医療機関を紹介している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同敷地内に訪問看護があり、何かあれば来てもらい相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は家族、病院関係者と連絡を取りあっている。協力病院とは関係づくりが出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を大事にし、慣れたホームで出来るだけ暮らしてもらえようホームで出来る事の説明をしている。無理になれば介護施設の紹介をおこなっている。	家族には事業所でやれる事の説明をしている。看取りへの思いは全職員にも伝わり家族の一員として看護技術を身に付けたいとの職員の思いが感じられる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が研修に行きながら学んでいるが定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得たり、独自で火災を想定し避難訓練を実施しているが、地域の方の協力の働きかけはしていない。	消防署の協力の元で火災を想定した避難訓練は実施しているが、地域への協力の働きかけはしていない。食品などの備蓄は準備されている。	災害はいつ発生するかも知れない。避難地・避難場所を確認しておくとともに地震による火災災害を想定した避難所へ訓練をしてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保については常に意識し、排泄の声掛けなど小さな声で誘うようにしている。居室の出入りも許可を得てから入るようにしている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、声掛けには十分気を付け馴れ馴れしくならない様に言葉使いにも心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	就寝時間、メニュー、する・しない等利用者に合わせて声掛けを行い、本人の意思決定を大事にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まり事は作らず利用者のペースに合わせて過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来ない方は整容に気をつけ、好きな方にはマニキュアを塗って楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物の前に何が食べたいか聞いて一緒に買い物し、食べられないものがあればメニューを変えて対応している。食事準備、盛り付け、食器洗い等一緒にしている。	利用者に食べたい物を聞き出し一緒に買い物に行き、バランスの良い食事を心掛け、盛り付け、後片付けなども一緒にしている。訪問日にはばらが煮魚(プリ)さくらが鶏肉と野菜のホイル焼きである。ユニットによりメニューは異なる。煮物(野菜)サラダなどはどちらかのユニットで一品作られ分けられる工夫がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が足りない方には好きな飲み物を用意したり、食事量の足りない方は、栄養補助食品を準備している。同法人の栄養士に相談することもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は歯磨きに誘い、その人に応じて見守り、声掛け、一部介助をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツ利用の方もトイレで排泄できるよう声掛けを行っている。又排便などは、排便パターンを知ったり、排便前の様子を把握し誘導できるようにしている。	利用者の排泄パターンを把握し、声掛けで自立にむけ支援を行っている。入所してから布パンツになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方だけではなく全ての利用者が、水分、野菜、運動不足になっていないか注意し、把握してバナナ、プルーン、お腹マッサージ等を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しみにされてる方は毎日入浴してもらい、嫌がられる方は時間を置いて誘ったり人を変えて誘うようにしている。	希望があれば毎日入浴は出来る体制はあり、嫌がる利用者には職員を変えたり少し間をあけたりして、入浴を楽しむ支援をしている。少なくとも週2、3回は入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝する方しない方それぞれ好きなようにされている。夜も時間を決めずに好きな時間に休まれている。寒暖も個々に応じてエアコンを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出された薬表をバインダーに綴じいつでも見られるようにし、変わった時は業務日誌、スタッフノートに書き、皆が把握できるようにしている。又内服変更時は、様子の変化がないか特に注意を払うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯干し、食事の買い物、炊事、花の水やり等個々に合った役割をもっている。又縫い物、貼り絵、散歩等一人一人に合った楽しみを持つよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に沢山出かけるようにし、桜の時期は花見に出かけている。	車での外出は困難でも外気浴・散歩は毎日し、外気浴では職員のアドリブなど笑いにつなげる工夫をしている。利用者の色々な場面を思い出す回想法にもつなげている。外気浴は利用者がとても楽しみにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はしておらず本人が自分に応じた額を持たれている。買い物に行ったときは自分でお金を払い買い物できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望があればかけてもらい、手紙はスタッフが預かり出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日利用者と掃除をして快適に過ごせるように支援している。音、温度にも配慮し季節に応じた作品を飾って居心地良く暮らせるよう工夫している。	対面の食堂兼居間は毎日利用者と職員で掃除され壁面に季節感を思い出す作品が貼られ採光など心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭いがアクティビティーでは一人でテレビを見たり、音楽を聴いたり、皆でお喋りできるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の希望で家具や電化製品はなんでも持ち込めるようになっている。いままで使用していた物は持ってきてもらい安心して過ごせるようにしている。	居室には生家の写真や利用者の作品などが置かれている。又、昔の生活を思い出される写真を飾っている利用者もあり、落ち着いて過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは分かるように大きく表示したり、居室はその方に合わせて表示を工夫している。		